



小さき群

救主降世2013年2月号 第80号

2013年度北海道教区宣教目標

『確かに未来はある あなたの希望が断たれることはない』

箴言23章18節

大鵬に深川のお寿司屋さんで 会ったこと

大野 耕一

昨日、相撲の大横綱であった元大鵬親方が亡くなりました。少し昔の話ですが、一度偶然お会いしたことがありその時の思い出があるのでお話しします。

2000年5月、大学のメンバーと一緒に東京の学会に行きました。先輩にあたる先生の友人が北大病院で手術を受けており、お礼がしたいと、わざわざ羽田空港まで迎えに来てくださいました。私と後輩一人がかばん持ちあるいは金魚のフン状態でくっついていったわけです（受け持ち患者さんではありませんが）。「銀座は高いから、うちの近所の寿司屋で御馳走しよう。おいしいんだよ。」ということで、深川の寿司屋さんに連れて行っていただきました。

しばらく、お寿司をいただき、楽しんでいると体の大きな人たちが家族連れで入ってきました。大鵬親方と息子さんの貴闘力とその子供たち（大鵬のお孫さん）でした。「巨人、大鵬、卵焼き」の世代としては野球の王や、長嶋選手と並び称されるヒーローです。友人の先生が店の主人を介して紹介してくださり、「北海道のひとたちかい」と大鵬親方も懐かしそうな風に見えました。「サケの食べ方を知ってるかい。」と大鵬さんが貴闘力（大嶽親方）に発言され、

その後に私たちにもいろいろ食べ方と美味しいところなどを教えていただきました。残念ながら何も覚えておりません。ただ、余すことなくいただくという姿勢を大切にしていることは、伝わってきました。また、色紙を送ってくださると約束され、大きな手で握手していただきました。

色紙は約束通り送られてきて、『夢』と書いてありました。お礼にグリーンアスパラを送りましたら、手書きの礼状までいただきました。

NHKの番組で自分の育った場所をいろいろ尋ねる大鵬親方の旅のなかで、戦争後の引き上げからの並々ならない苦労が伝わってきました。食べ物は決して粗末にできなかったと思います。飾らない人柄にとっても感銘を受けました。ご冥福をお祈り申し上げます。



きさらぎ(如月)は陰暦一月の異称。きさらぎには、寒いひびきがあり、着物を重ね着するので衣更着という説もある。

季節の風
きさらぎや
神の恵みの
なかに生く
羽州

札幌へ行かれた細矢さんのお手紙です。

敬愛する帯広の皆様へ

主にある喜びに感謝致します。

例年より遅いと初雪が根雪となり、積雪も2M近くになりました。そんな「雪」が札幌への歓迎の「証し」かもしれません。

1869年(明治2年)、エゾの地が北海道と命名され、開拓使による北海道開発の初めも、又、その6年後の明治8年、屯田兵が琴似に入地、入植の初めもこの「雪」との出会い……(歓迎)でした。

居を移し、年も明けて早や3か月となりました。住宅から札幌キリスト教会までは、バスと地下鉄を乗り継ぎ、およそ40分の道程です。

※将来、車の運転が出来なくなった時、交通機関と徒歩で教会通いは、中央バスと地下鉄東豊線。そして便利なのが札幌キリスト教会なのです。バスターミナルと地下鉄駅は同じビルの中にあり、「月寒中央駅」と言います。その近辺は、和田里美さんがお若い頃?住まわれていた(馴じみの)地域だそうです。

教会では11月初めから補式をさせて戴いており、桑山師と共にチャンセル席を与えられております。またアレコレ教会のお手伝いをしたり、大町司祭と信徒訪問をしたりなど邪魔にならないようにと「一応の心掛け」をしております。主日礼拝には大勢の信者さんとの祈り、学びがあり、交わりも多く、私も新人?ですが甘えてばかりはいられません。いずれにしても、最近ややガタが来たとは言え、神様に「お役御免」と告げられるまで教会通いが続くことでしょう。

慣れない土地での雪道の運転は当然控えてはと家人に言われ、(最近、少し素直になりました)目下、公共交通機関と徒歩で出掛けていますが、やはり気になるのは、豊平、月寒の地勢と今昔です。

札幌の地形は、市街地が発展した豊平川扇状地、その北方に広がる低平地、南西部を占める一帯は山岳地と、私の住む辺り一帯の「東部の波状に連担する丘陵、台地」に分けることができます。

私の住むマンションは、丘陵・台地の高位置にあり、四方に下がっており、傾斜地の一部にあり高層の一階ですが、窓の下的一般道路からは二階に見え、その道路をはさんで向かい側の建物からは三、四階に見えます。そんな凸凹のある地形が豊平であり月寒なのです。

戦時中は陸軍の駐屯地があり、そのための水

源地も、今は市民の散策地として整備されています。また、農水省の試験場跡地が大きな公園となり、私の所から徒歩10数分の地に月寒森林公園があります。更に、末の孫娘が4月から通う中学校は、ドームの近くの羊ヶ丘中学校です。その昔、開拓使により開かれた羊牧場の一角にあります。

見所、行き場所は周囲だけでも多くありますが、又難儀な面も。市街地中心部は開拓当初の方針で、東西南北碁盤の目のように区切られ整備されていますが、豊平月寒の町の俯瞰ができず、冬道に限らず車の運転は容易でないようです。いずれ春を楽しみに待ちます。私の部屋の窓から丁度西方に藻岩山の山頂と展望台が望めます。整備されてからは、まだ行っておりませんが、雪解けの後に是非と思っています。

帯広の様子は何かとお知らせ戴いておりますが、クリスマスの礼拝、そして前夜のイブ、キャロル、祝賀会等々さぞ楽しい交わりの場であつたろうと思います。札幌キリストもそれなりに趣向もあり、よき経験をさせて貰いましたが、いずれお話しする機会があると思います。



イブの夜、孫娘二人(大1、小6)と出掛けましたが、嬉しかったのは、久しぶりに飯塚さんの娘さんの美加ちゃんとお孫さんのあんじゅちゃんと会えたことです。札幌で私を「おじさん」と呼ぶのは少ないのですが、振り向くと久しぶりの

対面。丹、飯塚、細矢の三羽の鳥は各々発起人となり、聖婚式に立ち会い、各々上の子は女の子で1歳違い、お互いの家を(狭いのに)子連れで一泊した思い出が一挙にこみあげてきました。

だいぶ長々と綴らせてもらいました。あまり長いとYさん?辺りから「長い話しが無くなったのに、今度は長い手紙か」と例によって言われそうなので、このあたりで失礼します。

最後の送別会のおり、戴いた大枚の図書券、大変嬉しく使わせて貰いました。従来、文庫本の購入が多かったのですが、単行本で「歴史モノ」と最新刊の「歴史地図」を購入しました。本当にありがとうございました。

神様のよきお恵みが

2013. 1 細矢勝司

1月の教会委員会での主な報告・決議

1. 2013年度教会役員の役割を決めました。
(内訳は別掲)
2. クリスマスの振り返りをしました。
→キャロリングの時間設定、礼拝の開始時間等
3. 2012年収支決算(一般会計、特別会計)を委員会承認。2013年一般会計予算の委員会承認。



友情の人形

双葉幼稚園にはベティとスザンナという青い目の人形が二体あります。ベティは1927年にアメリカから来たお人形です。

その当時、アメリカで起こった“日本人排斥運動”に心を痛めた宣教師ギューリック三世が「世界の平和は子どもから」の思いからアメリカ中に呼びかけ、1万2000体もの人形が集まりました。バザーをしたり、おこずかいを貯めたりして、それぞれに名前を付け、手紙が添えられていました。日本中の小学校や幼稚園に送られました。

しかし、戦争の影が人形たちを襲います。友情の人形と言えども敵国の人形。人形をアメリカ人と思って突き殺せ。焼き殺せ」と先生は子どもたちに残酷な命令をしました。全国の人形はそうして壊されてしまいました。

ところが、幾つかの学校では人知れず隠され大事に残されました。それでは双葉幼稚園のベティさんは？

北海道帯広市の、双葉幼稚園では、戦時中に園舎のほとんどが、兵舎にされました。軍の命令なので、しかたありません。

丸屋根のりっぱな園舎は、これまでは先生たちが、きれいにふき掃除していたのですが、兵舎になると兵隊たちは靴のまま出入りしていました。

戦争がはげしくなるにつれ、国の命令で、男の人たちは、つぎつぎに兵隊にされました。兵隊の数がふえたため、兵舎がたりなくなり、学校や幼稚園まで、兵舎にされたのです。

1945年の春、夜になってから、園長の臼田梅先生は、娘の時子さんと、園舎の広いろうかに入りました。兵隊に気づかれないように、電気を消したままでした。

梅先生は時子さんに、「この人形隠すから、そこで、気をつけて見ていてね」といいました。

「そんなことをして、だいじょうぶなの」と、時子さんはなんともいいました。

「だいじょうぶ、心配しなくてもいいのよ。だれにもわからないところに、しまうから。人形には、なんのつみもありませんよ」

梅先生は、ベティを白い紙につつんで箱に入れ、どこかに隠してしまいました。

1997年の夏、ギューリック三世(一世の孫)は新たな友情の証として、双葉幼稚園に新人形スザンナが贈られました。

争いは、心も地球も汚します。人形ですら被害者になってしまいます。ギューリック三世の思いが形だけではなく、全ての人の心に根付いていくよう願います。「善きサマリヤ人」の心のように。

編集後記

地中海のみならず世界中にその名を馳せた『ベネツィア共和国』は共和国として1000年以上続いた歴史を誇ります。元首の選出方法も独特で強大な権限を有しますが、中世では珍しく共同体意識が強い国でした。外国人からは、まるで国全体が一つのファミリーのようだとされていました。この国では支配階級に属する者の犯した汚職は死刑と決まっていたが、たとえ救国の英雄であっても逃れられないものでした。それが共和国として長く続いた要因の一つであるとも言えるでしょう。

それを我が国に置き換えてみると、例えスキャンダルを起こした政治家がその後の選挙で勝ち抜けば、「禊を済ませた」と言っている例がかなりあります。これはその人物がその地方の一部の人にとって権益を守るために必要だとか、公職を重ねたとかで正当な評価を得たとは言い難い結果だと思えます。翻って関西の高校教師が起こした事柄も、長年優秀な成績を残してきたからということで専横を見逃してきた結果ではないでしょうか。時機柄だけに入試と絡んで本質が置き去りにされた感じがします。

「結果良ければ全て良し」では何も変わりません。思い切りも大事ではないでしょうか。

編集子